2012（平成24）年度

防災教育チャレンジプラン

すすめ！かぐてんぼう隊

～「意識」と「行動できる」人に～

WAGAYA NET

1.「かぐてんぼう隊」の歩み

活動の基礎

平成12年～
介護保険制度を利用した住宅改修と地域福祉に関する研究
住宅改修（訪問相談）の実態と課題
住宅改修に関する研修のあり方についての考察

活動の必要性

活動のきっかけ

- 介護保険利用者から
- 「わしは家具の下敷きになって死ぬのか！？」
- と言われたことから、
- 家具等を固定する施工者が必要と実感

活動の定式化

·平成16年12月　かぐてんぼう隊の活動の開始
·家具固定に関する活動方法のモデル化

活動の展開

平成23年　2月～　　家具転倒防止・推進連絡会
平成24年　3月～　　技術研究会

2. プランの概要

家具転倒防止隊を
ひと呼んで
「かぐてんぼう隊」
といいます。

「かぐてんぼう隊」は、
養成講座を受講して
隊員になります。

今年度は、主に小学生・高校生・
社会人・一般に展開しました。

家具固定の作業をす
ると、「喜ばれます」。
活動することによって、
「喜び」を感じることが
できます。

「かぐてんぼう隊」は、
平成16年12月、
大学生と一般合同で開
講したのが最初です。

【プランの目的・ここがポイント！】

大地震発生時において被害を少なくするためには、家具等の転倒防止対策を行うことはとても有効な手段です。

本プランでは、その推進を目的に小学生や高校生を対象とした家具等転倒防止対策の講座及び実習を行いました。

また、社会人・一般として、災害ボランティアに出前授業の講師として実践実習を行いました。

学童保育・小学校・高校

チャレンジプラン	団体名・組織名		対象者・人数		実践日時間	実践内容
その1 小学生の部	学童保育「こどものいえ」	NPO法人	小学1～4年生	16名	8／27 9:00～18:00(8h)	タイトル：家具等転倒防止対策のススメ！ 講座＆実習 社会人・一般に対しては、講師の実習も兼ねました。
その2 小学生の部	小学校	名古屋市立	小学6年生	15名 1クラス 計15名	9／13 9:50～10:30 (1.5h)	
その3 中・高校生の部	教育学部中・高等学校	名古屋大学附属	高校2年生	40名 3クラス計120名 (アンケート回収)	9／21・25・26 10:40～12:30 (1.5h)	

【期待される効果】

子どもたちは、講座及び実習を通して、自分の身は自分で守ること（小学生・高校生）、家族や近所の住民を守ること（高校生）を素直に理解してくれました。

子どもたちが家庭に帰って、両親、祖父母などに、家具等の転倒防止対策の必要性を伝えてくれると思います。

また、近所の住民にも伝えて、地域への見守りに繋がることを期待しています。

【ここがおすすめ！】

“子どもを主体にする”ことがおすすめです。飛散防止フィルムを貼ったり、壁の下地を探したりなど体験することで、子どもたちは関心を持ち、活き活きとした表情になりました。

授業の中で、地震の際に家具が転倒する映像を見せることは、**“我が事意識”**を持つことに最も有効でした。

夏休みに**自分の部屋の平面図や家具の配置**をあらかじめ描いてきてもらった高校生の宿題も効果的でした。

3. チャレンジプラン

対象：高校2年生
日程：9月21日（金）、25日（火）、26日（水）の3日
時間帯はいずれも3･4時限目で、10:40～12:30
内容：家具固定の必要性及び実習
授業：家庭科
当日のご担当の先生：情報科（中学の技術科）

講義

実習

本授業の概要

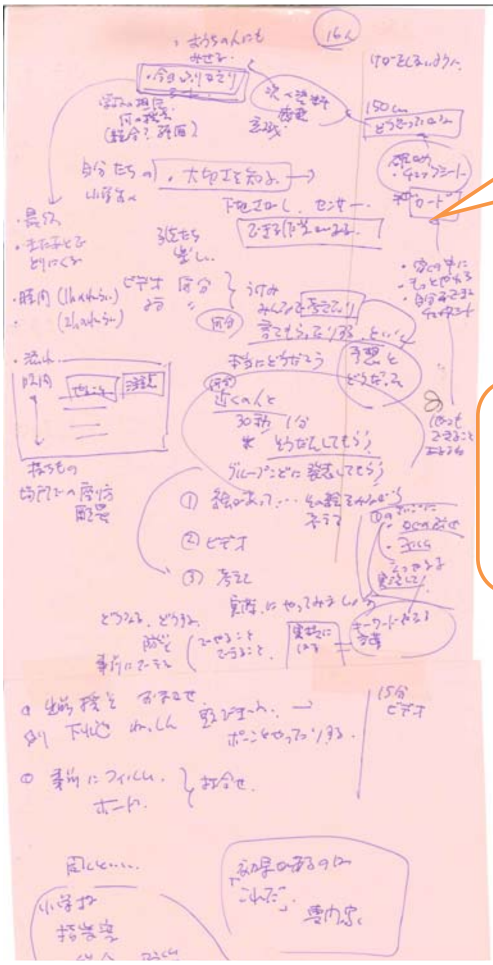
- **講座と実習**
- 授業前の宿題（部屋の平面図と家具の配置図を描く）
- 家具等転倒防止対策の必要性を映像と座学で学ぶ
- 避難動線の確認
- 木造壁の下地を探す
- ガラスに飛散防止フィルムを貼る
- shake　outの紹介
- 安否確認の方法

4．苦労した点・工夫した点

■苦労した点
「小中高の学校教育の現場」は、**私たちにとって“未知の領域”**でした。
授業計画書（案）の作成に苦労しました。

■工夫した点
まず、協力してもらえそうな方々に声をかけました。
授業計画書（案）の作成において、小学校校長、名古屋市教育委員会、中・高校の副校長、義妹（横浜の小学校教諭）から**助言を頂きました。**

小学生に分かりやすく伝えるよう工夫しました。
小学生低学年、高学年の**身長に合わせて、ボードパネルを製作**しました。
今回のチャレンジは、学校教育での取り組みとして実施しました（図2）。
やるべきこと、伝えたいことは山ほどありますが、与えられた授業時間内で、防災の中の「家具の固定」にテーマを絞りました。



授業計画書の素案

身長に合わせたボードパネル。衝立式にしました。

5．成果として得たこと 成功の鍵と失敗から学ぶ

成功の鍵

“熱い説明”と“お願い”

「キーマン」との想いの共有

失敗から学んだこと

急いては事を仕損じる！
「横のつながりが大切！」

6. 活動の核

多彩なメンバーのお陰です。

家具等転倒防止対策・推進連絡会＆技術研究会を毎月行っています。

メンバーは、建築士、介護福祉士、ケアマネジャー、薬剤師、大工（増改築相談員）、水道屋、サッシ屋、元トヨタグループ社員、ケーブルテレビディレクター（元NHKカメラマン）、名古屋市（消防局、住宅局）、社会福祉協議会職員等

7. チャレンジプログラム 寝室の安全対策①

内閣府（防災）
震度６体験シュミレーション
揺れ方のシュミレーション

映像は、授業（講座）で使用すると、**効果的**だった。
「児童・生徒の反応がすごい！」

寝室の安全対策②

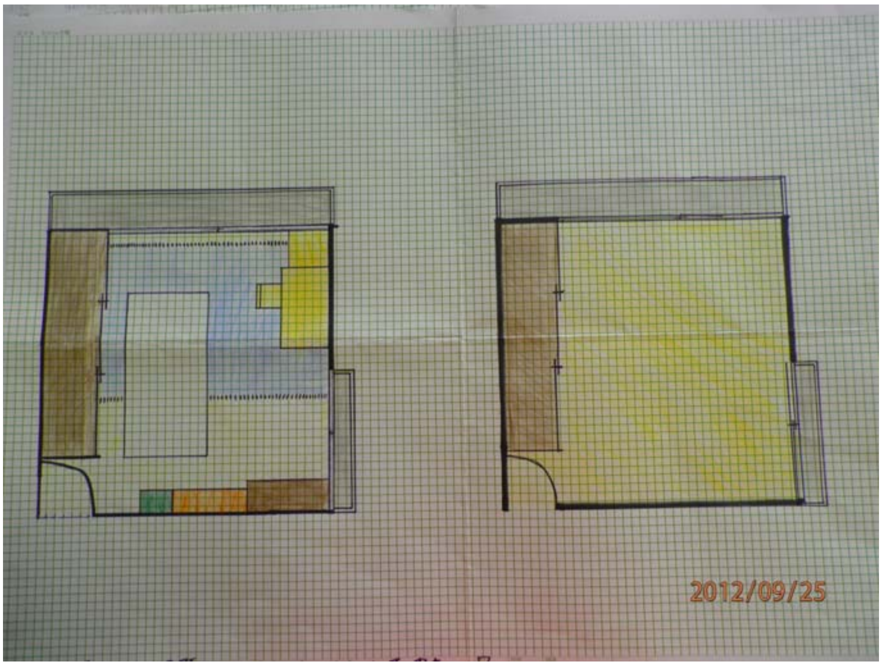
夏休みの課題「自分の寝る部屋の平面図」
をもとに検証する。

あなたの寝室と避難経路は大丈夫？

寝室の危険度判定をしてみよう！

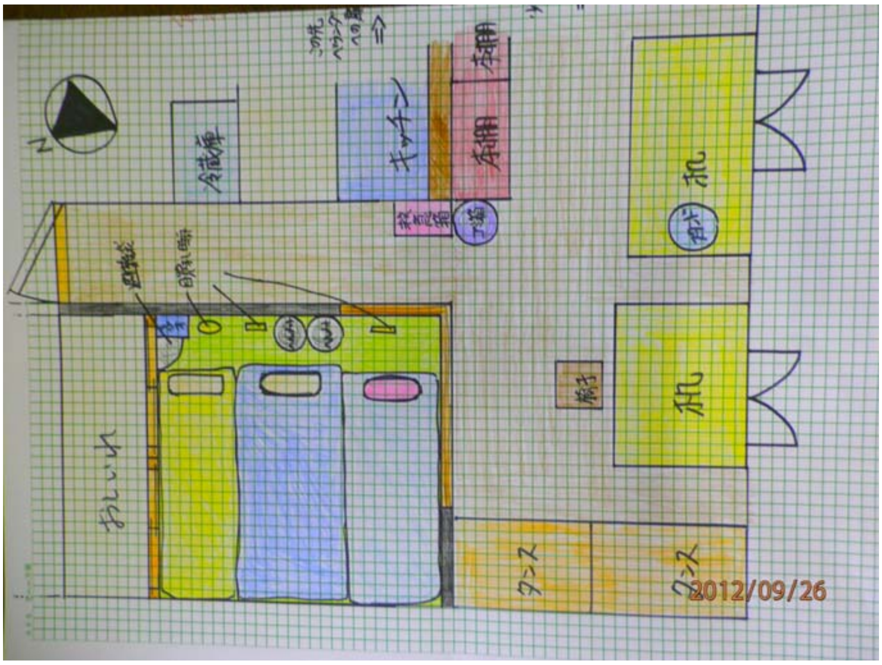
家具類の配置の見直しをしてみよう！

Aさんの部屋
ビフォー、アフターを検討する



Bさんの部屋

「物心ついた頃から、既にこうなってました！」



素晴らしい！！

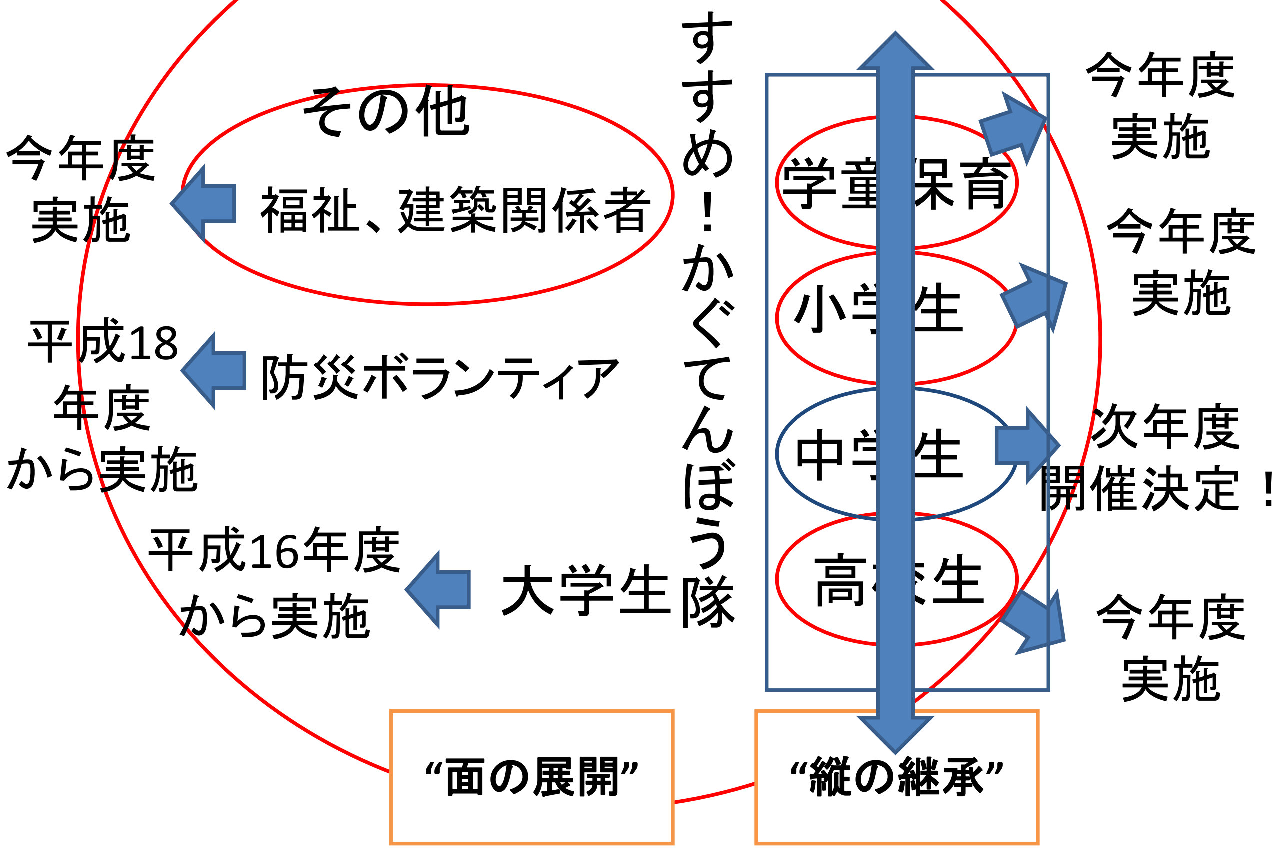
8. アンケート

アンケートの記述（一部）

- 地震の被害を知るだけでなく、**現実的な対策を身をもって知ることができて**勉強になりました。実技も初めての経験で、楽しく学ぶことができました。
- 下地があるL字につかまって浮けたのが驚いた。映像で地震の様子を見て、**場所や地震の種類によって、こんなにも異なるのかと考えさせられた。**タンスが迫ってくるのは恐い。ガラス割るのは迫力があった。
- **親と話し合って**家具の固定や配置をしたいと思います。そして、**周りの人にも伝えよう**と思いました。
- 高校生防災セミナーの発表のときに参考にさせていただきたいです！！

次につながっていけば、
最高に嬉しいです！

教育チャレンジ対象者



9. 社会人・一般の展開

「家具等の転倒防止対策」と
「地域の見守り」

「ありがとう」「これで安心できる」「頼もしい」喜ばれることが喜びになる！

つながりの経緯（その他）
耐震化支援＆かぐてんぼう隊

増改築相談員（瑞穂福祉住研）のリーダーに「家具固定に関わらない？」と話をした。

「かぐてんぼう隊の活動は、介護保険の住宅改修の目的と似ているところがあるね。うちの「福祉住研」の主旨に合っていると思うから、皆に図ってみるね。」と言ってもらえた。

「福祉住研」のみんなに相談したら、関わってやってみよう！と言うことになったよ。」とのこと。

増改築相談員・町内会

「町内会長に話ができる建築士がいるから、彼につなげてみよう。**名古屋市の耐震化支援と家具固定をセットにローラー作戦を**してはどうか？」「それ、いいね～、やってみよう！」

中村モデルを参考にしている。

「町内会で、家具固定の件数がまとまって依頼を受けた。」大工ばかりで施工をしたが、やりながら、いろいろ学ぶことができた。

今回の成功は、**町内会長が毎年「お祭り」を**開催していて、「いざ！」というときに、**住人の協力**が得やすい環境にあった。

10.まとめ

今回、チャレンジしての感想は
まず、自らが率先して
知識や技術を提供し
次に、やってもらう
そして、「褒めること」
「認めること」が大切

だと思いました。

やってみせ、
言って聞かせて、
させてみせ、
ほめてやらねば、
人は動かじ

山本五十六